

六十年の私の歩み

西脇りか

幼児教育者の玉子として、私が可愛い子らの相手として立たされたのが明治三十二年の春であったか。それは大阪府師範学校附属幼稚園の教生の時であった。幼児教育の重要性を何にも知らずにであったが、ただ子どもがすきなので、この教生時代の楽しかった事が、一生を通じて忘れられないのしきであった。大阪船場の真ん中にある醬油卸店の子どもの、片言まじりの話し振りの可愛さ、「先生シキョウケッシャモッテキマシタデ」「えらい子ね」「塩見ちゃん（この子の姓は塩見、名は三郎）あんた父母フボって知ってる？」「知ってまっせ」「どんなもの？」「『こはん入れるものだすぜ』この子は冬に御飯のさめぬように、おひつをふご（わらであんだもの）に入れる、その「ふご」を思ったのであった。自分の言った事を、先

生がほめてくれるであろうというふうに、じっとこちらの目をみつめて笑っていた、その時の瞳の可愛さ。その瞳の持ち主こそ誰であろう、京都大学教授経済学の大権威者、経済学博士塩見三郎その人で、つい過般名譽教授の位置で他界せられた、享年六十有五才。幼児教育と言えば塩見博士の幼稚園時代を思わずにはおられないのです。東京女子高等師範学校時代の教生期もやっぱり幼稚園の教生がたのしいものであった。時の指導先生のご批評に「西脇さん、あなたは子どもをよく叱るが、叱ってもあなたの、叱り方には冷たさがない、なんとなく温かい、子らも気持ちよさそうに叱られてゐる。これはあなたの徳ですよ」とおっしゃっていただいた事があった。それは長佐谷美知先生であったかしら。「日本の

海を舟出して、西に向えば支那の国、亜細亜の半ばを保ても帯う古史のあとばかり」と、リズムに合せて、こんな、むつかしい歌も、元気に調子をとってうたいつつ一所にプロムネードをしておって、ひよつと入口を見ると、支那服に、三つ組にあんだ黒髪を長く後に垂れた、堂々たる体軀の參觀人十数名もあったが、「ハッ」として子らの高々と調子よくうたっているこの声を急にとめさせようとして困ったこともあった。これも忘れられぬ思い出。今の時代と比較して大きな相違のあるのに感無量のものがある。

「過ぎ行く光陰矢よりも疾し」私が真剣に幼児教育の重要性を感じたのが昭和二年。大阪女子師範学校の同窓会である常磐会が奮然として幼稚園を経営することとなった時であった。母校の附属幼稚園に殺到する幼児の中から入園を許されるのが僅か三十名ばかりで、あとの大多数の母と子が、しおしおと、かなしそうに引き上げて行く姿をみて、これではと、母校の附属幼稚園に勝るものと思ひ立て以来、爾來苦心慘

檐、土地の買入れ園舎の建築など重なる苦難を突ばして常磐会幼稚園と名付けて今や三十有余年にもなり、役立つ人材を統々社会に送り出している。私はその幼稚園の理事長であり、園長でもあって、去る十一月七日上野の文化会館で荒木文部大臣より功績顕著であるとの表彰を受けたのも、この幼稚園の園長であつたからである。この常磐会幼稚園の外に、私は頼まれ園長さんとして、中央なにわ幼稚園、玉川幼稚園、千里ヶ丘幼稚園、諏訪森幼稚園と四つの園長さんでもある。これがまたおもしろい現象を知らされているのです。中央なにわ幼稚園はいわゆる大阪商店街の中心地にあつて四百に近い子らの多数はスクールバスで運ばれているが、さすが商業家庭の零囲気が自然に身につけていて、幼いながら社交性を多分に持っている。教室を巡って見る、立つて参観している私のうしろに、可愛い椅子が運ばれる、可愛いふとんを持ってくる子がある。それは先生の命令でなしにことごとく子らの自発心からです。手洗いをすすすと子らが競って自分のハンカチー

フをさし出して来る、かえりしなには「先生、さよならまた来てね」家庭での客のあつかいを自然に見ておつての習慣性であると思われる。特にこの幼稚園の子らが社交性に富んでいる事は感嘆に値する事です。また使用の人を多勢おいてある家庭の子どもは遊戯や作業のあとしまつをしない児が多いのも事実であつて幼稚園では各家庭での躰の長所をのびし短所を補う躰を工夫するのが、大きな任務であると切實に感じています。

幼児教育の重要な事を切実にこのように感ずるようになってきますと幼稚園教諭の責任の重大性を思いまして、私共同窓会では幼稚園教員養成所をと思ひ立ち、昭和十八年四月から大阪学芸大学指導の下、文部省の認可を得まして、幼稚園教員の養成を企図し、今年で満九年となり今では常磐会保育学院と命名、昼夜に分けて高等学校の卒業生を入れ二ヶ年で卒業させることにしておりますが、この卒業生の需要多くして供給伴なわざるに今では苦心の姿です。我が内閣ではこの頃さかんに国造り人造りとい

うことばをつかわれています。人が人造りの重要部分に幼稚園がある事を思つてほしいもので、幼稚園は義務教育としてほしいと切に痛感している私の今日この頃なのであります。

昭和三十一年十二月十七日

(大阪府・常磐会幼稚園長)

日本保育学会第16回大会予告

日時 五月十八日(土)～十九日(日)

会場 香川県高松市 市民会館 県庁ホール

内容 (1)研究発表 (2)シンポジウム

「就学前の家庭教育のあり方」
 (3)その他 課題研究・公開講演など

参加資格 正会員 準会員(当日受付)

連絡先 香川県高松市幸町一二一

香川大学学芸学部心理学教室内
 日本保育学会第十六回大会準備委員会